

平成30年度第5回小金井市放課後子どもプラン運営委員会

日 時 平成30年12月26日(水) 午前10:00から11:30まで

場 所 小金井市役所第2庁舎801会議室

出席者 田中委員長、浦野副委員長、志波委員、多田委員、大久保委員、本川委員、水谷委員、黒田委員、鈴木委員、関生涯学習課長、菊池図書館長、西村公民館長、浜田指導室長、鈴木児童青少年課長、富沢コーディネーター、伊藤コーディネーター、古源コーディネーター、森田コーディネーター、西田コーディネーター、吉田コーディネーター、伊野コーディネーター

小堀生涯学習係長、吉楽生涯学習係主任

欠席者 石原委員、佐野委員、小林委員、三浦庶務課長、梶野子育て支援課長、小岩コーディネーター

傍聴者 なし

(1) 各小学校区の事業の進捗状況等について報告

【一小】PTAが行っている校庭開放と図書室開放を、放課後子ども教室として実施できないか、PTAから提案があった。校庭開放は今まで通りPTAで実施、図書室開放は保留となった。

【二小】計画通り順調に進んでいる。

【三小】2学期に陸上、テニス、コンサート、学芸大かるた部とかるた教室等、多くのイベントを行った。

【東小】12月に東小で初めて体育館でのスポーツ教室を開催した。参加者55名。学校の協力もいただき順調に進めた。来年度は学期に1回程度やる予定。

【前原小】12月にまえはら学童と合同で、不審者対応の避難訓練を初めて行った。安全管理員、放課後児童、学童指導員、学童児童等、計94名参加。今後も継続する。

【本町小】火曜に校庭開放、水曜に放課後図書室、木曜に英語教室、金曜に放課後子ども教室と、週4回開催。放課後図書室は、学芸大学習サポートプロジェクトCCSSと連携している。3学期は百人一首、日本の伝統遊びを開催予定。

【緑小】新規で英語教室を木曜日に実施した。

【南小】2学期から1年生の参加が可能となり、申し込みが増えた。11月に推進委員長と一緒にみなみ学童を訪問し、打ち合わせをした。

【実行委員会報告】第6回は11月13日火曜に開催した。体操教室レッツとの連携について、来年度から各校区推進委員会内で活動する形にしてもらった方がよいという話になり、後日レッツに提案をした。また避難訓練災害対策の情報共有、実行委員会内での開催チラシの共有等について検討した。第7回実行委員会は12月11日火曜に開催した。各校区の来年度の事業計画について、どの学校もほぼ1割増の計画が出た。またコーディネーター2人制について意見を出し合った。2学期中の活動報告は年内に提出し、予算調整を行い、予算の有効執行を目指す予定。

【事務局】四小については、雨天により校庭開放を4回中止したが、ほぼ予定通り順調に活動している。実行委員会預かりについては、レッツ体操教室は南小で3回実施、計128名参加。図書室開館は11月中に計5回開催し、計44人参加。放課後カフェは9月から12月で計8回開催し、計493人参加。ふじがね教室は9月から11月に計4回開催し、計2人参加。

(2) 放課後子ども教室の進捗状況について

【事務局】12月25日までに提出された申請分を反映した。平成30年12月迄で、通算627回、参加者数21,060人。回数は前年同様、参加者数は前年度より若干減る見込みである。

(3) 今後の方針について

【事務局】これまで、放課後子ども教室の運営については、各学校の状況を鑑み、できる範囲でできることを行っていたが、今後は子ども達が放課後いつでも自由になれる場所の整備を目指していきたい。そのためには条件整備が必要であり、場所の確保と、人材の確保が大きな課題になる。場所の確保について、今後5年間の児童人口が大幅に増加するという推計値が出ている中で、余裕教室の確保が更に難しくなる。協議会で放課後子ども教室、学校、学童、関係職員で直接話し合い、放課後子ども教室を行うための場所の確保に向け、知恵を出し合っていきたい。人材確保について、三市学芸大連携講座受講者へのスタッフ募集の呼びかけ、市報・市ホームページで放課後スタッフを募集。また各小学校区放課後子ども教室推進委員会から保護者や町会等にスタッフ募集のお願いをいただいているが、他の方策も検討していく。謝礼額も、人材確保の観点から課題であり、条件整備の一つとして検討する。

【委員長】今後の方針について、資料配布はしないのか。

【委員】情報共有ということで、議事録配布は検討していく。新放課後子ども総合プランは、後で要約版を配布する。

(4) 協議会の報告について

【事務局】前原小学校区協議会は10月15日、10:30から11:30、場所はけやきルームで開催した。出席者は副校長、学童指導員、放課後推進委員長、コーディネーター、児童青少年課係長、生涯学習課課長、主任が出席。放課後子ども教室、学童、学校から2学期予定の説明と、学校からは余裕教室の状況説明を頂いた。不審者対応について、学校・学童・放課後子ども教室が連携して対応するため、緊急時避難訓練を行いたいと話があった。他に3者で情報共有をした。

第三小学校区協議会は10月23日、11:30から12:30、場所はあかね学童①室で開催した。出席者は副校長、生活指導主任、学童指導員、放課後コーディネーター、

放課後推進委員、児童青少年課長、主任、生涯学習課長、主任が出席。放課後子ども教室から、スケジュール、協議会以降の改善点、協議会で進展した点、放課後子ども教室としての課題報告。あかね学童から2学期の予定報告。学校から2学期の予定、余裕教室の状況を報告していただいた。他に猛暑対策、ジュニアボランティア、学校と放課後子ども教室との連携、緊急対策避難訓練等の情報交換を話した。

東小学校区協議会は10月30日、10:30から11:30、場所は会議室で開催した。参加者は校長先生、副校長先生、学童指導員、放課後コーディネーター、放課後推進委員、児童青少年課長、主任、生涯学習課長、主任が出席。放課後子ども教室からは、2学期の予定、避難訓練の報告。学童から2学期予定、避難訓練概要の報告。東小学校からは余裕教室の状況、緊急時対応、避難訓練等について報告。その後、放課後子ども教室、学校、学童との連携、猛暑対策、初の体育館イベント、不審者対応等の情報交換を行った。

本町小学校区協議会は12月21日10:30から11:30、場所は校長室、出席者は校長先生、副校長先生、学童指導員、放課後コーディネーター、放課後推進委員、児童青少年課長、主任、生涯学習課主任。オブザーバーとしてCCSS学大教授が参加した。放課後子ども教室から、教室平均人数、2学期予定等の報告。学童から保護者会配布資料に沿って4月からのイベント概要、保育についての注意点、熱中症対策、学校との連携について報告。学校からは放課後子ども教室やCCSSとの連携。余裕教室状況について報告。意見交換について、今後児童が増えていく状況で、学校・学童・放課後子ども教室でそれぞれ調整しながら対応していく。熱中症について情報共有。最後にCCSSから、プロジェクト内容の説明があった。

4校区の協議会で、どの学校でも余裕教室が足りない中、今後居場所確保が重要な課題であり、他に熱中症対策、不審者対応について様々な情報交換が出来た。

【委員】放課後子ども教室と学童との連携について議論はなかったか。

【事務局】東小では学童児童の居場所把握のため、一度学童で出席を取ってから放課後子ども教室に参加するというルールに統一した。本町小は学童が離れているため中々学童児童が放課後子ども教室に参加できないが、移動に伴うリスクもあるため、お互いやりやすい形で連携していく、という話になった。

(5) 新総合プランについて

【委員】新放課後子ども総合プランについて、平成30年9月4日付けで厚労省文科省連名で通知され、その概要版を配布した。これに先立ち平成26年7月に、国が策定した、放課後子ども総合プランでは、放課後児童クラブについて、2019年度までに約30万人分を新たに整備するとともに、すべての小学校区で放課後児童クラブ及び放課後子ども教室を、一体的にまたは連携して実施することを目標とした計画的な整備を、放課後子ども総合プランとして掲げられた。国の方針に対し、小金井市としては、のびゆくこどもプ

ランに基づき、今年度協議会を立ち上げ、来年度9校で一体型もしくは連携型での実施を目指している。それで今回新放課後子ども総合プランが示された。背景は近年の女性就業率の上昇等により、更なる共働き家庭の児童数の増加が見込まれているところから、待機児童解消や、いわゆる小1の壁を打破するために、これまで以上の子どもの放課後の居場所が必要となる。最初に国から示されてから4年で今回新たなプランが示されたことは、社会状況の変化に対応するため、時点修正したものと考えている。今までのプランとの違いは、既存のプランをベースにしてそれを量的にも発展させている。具体的には、放課後児童クラブは待機児童解消を目指し、2023年度末には更に30万人分の受け皿を設けることや、すべての小学校区で学童と放課後子ども教室を一体的又は連携して実施し、そのうち小学校区内で一体型として全国で1万か所以上の実施を目指す量的な目標を掲げ、さらに学校施設の徹底的な活用や、子どもの実勢、社会性等のより一層の向上を図る事を目標に掲げられている。

【副委員長】小金井市では学童の待機児童状況はどうか。

【委員】小金井市は全入制だが、入所率は定員に対し、120%から130%程度。

【委員】二小では5時間目以降から4時半まで教室を借りているが、時間を区切っても教室を借りられないのか。また他市では1時から放課後子ども教室を開始しているところもある。余裕教室として今後更に足りなくなるので、その時間や場所についても伺いたい。

【委員】それらはこれから協議会で具体的に話していく。ハード面を増やすことは難しい。時間の住み分けもある。隣が授業中だと声がうるさい等、校舎の形態にもよるので一律には言えないが、学校も苦勞している中で、子どものために調整するのが大きな課題。来年協議会を全校実施し、国からも教室徹底活用と言われているので、学校とも協力し、余裕教室確保について方策を練っていききたい。

【委員】小金井市の0歳から15歳の中で、今一番多いのが0歳児で、その子どもたちが学校に行く時期までに整備しておかないと、同じように苦勞する。先を見ながら取り組んでいただきたい。

【コーディネーター】保護者の声を聞くと、放課後子ども教室ではなく、学童を求めているという声がある。このプランでは放課後子ども教室と学童を同じように考えてしまうが、目的や規模の面で放課後子ども教室と学童を一緒にやるのは違う。

【委員】今の意見について、その声の背景は、もし毎日放課後子ども教室があれば学童でなくてもいい、というニーズもある。両方の意見を考えていただきたい。また、学童は定員840人に対し、今年の利用者が988人。定員に対し約117%入っている。

【委員】放課後子ども教室の根底は子どもの安全安心な居場所。今は毎日開催できていないが、子どもの居場所を充実させたい。

【委員長】小金井は人口が増え、今でさえ余裕教室はない中で、放課後子ども教室を毎日開催することについて、指導室長どう考えているか。

【委員】まずは教室確保を第一にやらなければならない。その上で放課後子ども教室と連携

するために、必要ならなんでも貸す状況を作るのが大事。普段使っている教室も何らかの方法で貸すという形で連携したい。

【委員】放課後子ども教室の開催場所として、公民館や児童館で活動を行えないか。

【委員】児童館は子どもが一旦帰宅後に来るルール。中高生も来る。また、本町小や緑小は学童が離れているので、場所を借りて、緊急避難的に対応している。課題を把握し、何かできるか職員に話をしてみる。

【委員】公民館施設利用について、相談いただければ検討する。また公民館側からすると、子どもの利用が少ないので、できるかどうか今後検討していきたい。

【委員】財政事情や問題はあるが、公共施設を増やしていく考えは長期計画にはないか。

【委員】現状小金井だけではなくどの自治体も、施設面積を狭くして総量を減らしていく考えがあるのではないかと考える。維持費、老朽化等、将来的な財政負担となる。その中で有効活用をするという考え。民間等の力を借りての運用は、今後の課題と考える。

【コーディネーター】人材確保は、誰に向かって呼びかけるのか。働く女性が職場として放課後子ども教室を選んでくれる位にしないと、その先が続かない。

【委員】謝礼額含め、放課後子ども教室活動を担ってもらう環境整備のため、できることからやっていきたい。

【委員】新放課後子ども総合プラン本文に、運営委員会に参加すべき対象者として、学童保育指導員が載っているが、小金井市にはいない。来年度以降、運営委員構成を再度検討して頂きたい。また人材確保について3市連携講座をやっているが、来年度は放課後子ども教室に関わってくれる人材育成のテーマを小金井市が企画し、修了者がスムーズに放課後子ども教室スタッフに登録するようにして頂きたい。

【コーディネーター】人材確保について、今は1校だけで安全管理員が活動しているが、どの学校でも活動できるようにすべき。また子ども達も自分の学校だけでなく、どの学校の放課後子ども教室にも参加できるようにすべき。また居場所確保について、校庭は学校によってはスポーツ団体に貸している学校もあるが、時間を区切る等、市全体の事業として放課後子ども教室が使えるようにしてほしい。

【委員】中学校のことは、事務局から一定の提案を出していただきたい。

(6) その他

【事務局】コーディネーターの負担軽減と引継ぎのため、来年度からコーディネーターを各校二人体制にするよう調整中。誰がコーディネーターになっても、同じように放課後子ども教室を継続できる体制を作るため、実行委員会で進めている。予算の根拠となる時間数は現状のままで考えている。また放課後子ども教室予定表を配布したので、運営委員には見学に行っていただきたい。次の運営委員会は2月14日(木)、前原暫定A会議室で開催予定。